

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301115		
法人名	有限会社 フロンティア		
事業所名	グループホーム 久米		
所在地	岡山県津山市久米川南2551-1		
自己評価作成日	平成21年10月23日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370301115&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370301115&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成21年11月5日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が行くべき目標はしっかりと共有してケア統一を図りながら、利用者一人ひとりに合わせた支援を行っています。  
 365日24時間対応可能な協力医との連携で利用者がホームで安心して楽しく暮らせるよう支援しています。  
 管理者が中心となって職員と一緒にケアマネージメントや運営について新しい取り組み方を考え、ホーム全体にも反映しています。又、地域との交流にも積極的に取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者が管理者や職員に言っていることは「利用者のことを常に大切に考え支援して下さい。そのためには職員が楽しく笑顔で過ごせるような境遇を」として「県北の各地域の人に貢献してください」と言っており、グループホームは利用者、職員の事だけを考えて運営できる。そして色々と支援もしてくれるそうだ。ホームには代表者のメッセージが掲げられている。その一つがふるさとと題して「古里は人生の宝 楽しいこと苦しいこと 山や川人々のこと」代表者の気持の表れである。職員は利用者一人ひとりの生い立ち、思いや生きがいを考えながら支援をして、利用者と職員と一緒に楽しく笑顔で暮らせる第二の我が家を作っている。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を大切にその人らしい生活を送っていただけるよう支援している。その為にミーティングや運営推進会議で理念の理解を深め、工夫としてはその人が発する言葉集めなどを行い、意見の統一を図り評価を行っている。	理念はよく目につきやすい場所に掲示し、常に意識しながら日々のケアを行っている。支援の根底を示す理念なので、職員にも深く浸透し、自然な流れの中で利用者のホームでの生活に活かしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校や地域の行事等に利用者と一緒に参加し、交流を持っている。日常的に散歩や買い物に出かけ、挨拶を交わしたり、また、自家作りの野菜や花の差し入れがあったりする。	地域行事に出掛けたり、ホーム行事に来てもらったり、横の畑で農作業している人はホームで休憩したり、外食の店で知り合った人が遊びに来るなど、地域住民の1人として無理のない交流ができつつある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れを行っている。地域の方々から認知症の相談を受けることもある。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	質問・意見・要望を出してもらい、話し合い、検討提案事項は報告し、一つ一つ積み上げている。	2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を実施し、その後利用者と一緒におやつを食べたりホームの行事に参加してもらう等、うまく企画して理解を深める工夫があり、家族の出席もとても多い。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市より情報提供をしてもらったり、日頃から利用者の暮らしやニーズを伝え連携を深めている。	何かあれば、市当局に相談して指導・助言を受けている。今後は地域包括支援センターへの働きかけも検討中だ。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」をもとに勉強会を実施し、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するため、工夫に取り組んでいる。	身体拘束をしないケアのマニュアルを作成し、職員ミーティングでも話し合い、研修があれば参加して勉強し、実践に努めている。今まで終日玄関開放していたが、防犯のため深夜のみ施錠を決断した。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族等に運営推進会議を利用して情報提供を行っている。社会福祉協議会などが主催する研修に参加している。		
9	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明し同意を得ている。制度改正等による場合も相談に応じ、一方的な通達にならないよう心がけています。		
10	(6) 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や手紙、電話などで常に問いかけ、気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。	何かあればその都度家族と連絡し合い、互いに相談している。日々の家族の面会も多く、運営推進会議も多数出席しているので、意見や要望も言いやすい。ホームは真摯に受け止め運営に反映している。	
11	(7) 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・勉強会を月1回行い意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけている。	月1回の職員会議以外に、何かあればその都度職員ミーティングをして相談し、毎日の申し送りで気づきを話し合って活発に意見交換している。利用者の入所判定についても、全職員で検討している。	
12	就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。職員の疲労やストレスの要因について気を配り、勤務時間中にも気分転換できる休憩をしている。		
13	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修内容やミーティング等で報告してもらい、共有している。		
14	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所同士で交換研修や事例検討等を通して勉強会を実施し、サービスの質の向上に努めている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人に会って心身や生活状態を把握し、本人の不安や想いに向き合い、その人を良く知ろうと関係作りに努めている。		
16	初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談される家族等の話を傾聴し、立場を理解しながら話し合いをしている。家族等の気持ちを受け止める努力をし、関係作りを行っている。		
17	初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いや状況を確認し、ホームの方針を話す。本人の改善に向けた支援の提案また情報提供を行い、職員が共有しながら対応している。		
18	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、お互いが共に支え合い、協働しながら穏やかな生活ができるよう声かけをしている。		
19	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態を報告・相談し、情報交換を密に行うことで協力関係を築く事が出来ている。来訪時はご本人とご家族の潤滑油になるよう心がけている。		
20	(8) 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に行き続けている利用者やお墓参りに行く利用者、地域の行事に参加したり、馴染みの友人に会いに行ったりと継続的な交流が持てるよう働き掛けている。	家族の面会が多いので、家族にも協力してもらいながら、利用者の馴染みの場や交友関係が継続できるよう支援している。それは困難な利用者の希望に沿って、職員と一緒に墓参りに行ったこともある。	
21	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や役割活動等を通して、利用者同士の関係が円滑にいくよう職員が調整役となって支援している。		

己自	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合、支援状況や注意点など情報提供し、連携を心がけている。また、機会を作って訪問に行ったり家族からの相談にもものっている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で発せられる言葉や表情などから真意を推し測ったり、声かけを行い把握に努めている。また、ご家族から情報を得ている。	「どうでしょう、いいですか？」の声かけをたびたび聞いた。自分の意向を尊重してもらえるのが分かっているので、利用者は遠慮なく「嫌だ」が言える。ホームは利用者の思いを大切に支援していた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のバックグラウンドを知れば知るほどその人への理解につながっていき、また本人の生きがいの見出しにもなる。家族や親戚の人からの情報を大切にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解するとともに、その日の状態のチェックを行い、その人らしく生活していくために、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で要望や思いを聞き、プランに反映させるようにしている。職員全員で意見交換やモニタリング・カンファレンスを行っている。	個別ケアチェック表で問題点を抽出し、全職員で相談しながらプランを作り、検証している。ケアプランはいつでも見れるようファイルして現場に置き、プランに沿った支援を心がけている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに身体状況及び気づきや状態変化を記録し、職員間の情報共有を徹底している。個別記録を基にプランの見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況に応じて買物、通院等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力している。		

己自	部外	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域生活を継続していけるよう民生委員や愛育委員等と意見交換する機会を設けている。必要に応じて外部のケアマネとの連携も図っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。365日24時間対応可能で医療機関と関係を密に結んでいる。	何かあればいつでも対応してくれるホームの協力医の確保ができていますので、家族は安心して主治医として利用者を委ねている。往診記録で情報を共有・確認しながら連携し、適切な支援をしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な事情の変化に応じた支援が行えるよう看護職と連携を取り、適切な医療につなげている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、本人への支援に関する情報を医療機関に提供し、職員が見舞い、家族とも状況等情報交換を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか事業所が対応できる最大のケアについて説明を行い、医師、職員が連携をとり、方針をチームで話し合っている。	今のところ該当する事例は発生していないが、医療的な問題がなければケースバイケースで、本人・家族とよく話し合い、全職員で相談して、その希望に沿って出来る限りの対応をしたいと考えている。訪問看護サービスも含めた医療連携体制を主治医と検討中である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行政関係者や消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施し、職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。地域の協力体制については運営推進会議で協力を呼び掛けている。	利用者も参加して、年2回避難訓練を実施し、緊急時のマニュアルや連絡網も作成している。火災報知機や通報装置も設置したので、消防署の協力を得て、運営推進会議で災害対策を話し合う予定だ。	

己自	部外	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものにならない言葉かけをするように努めている。また、その人の守るべき情報は決して漏らさない等、人権意識を徹底している。	「自分の座る席も分からんようじゃ困りますな。私、何も覚えとらん、パーじゃ」と言う利用者者に「大丈夫、私が覚えとりますから」と職員が明るく返し、2人で微笑む心和睦場面を見た。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけを行い、職員側からの押しつけではなく、複数の選択肢を提案したりして、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。その日の体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し、希望を尋ねながら支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの美容室で希望に合わせたカットやパーマをしてもらえよう連携をとっている。着替えは本人に選んでいただいたり、職員と一緒に考えて、本人の気持ちに沿った支援を心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に育てた野菜を畑から採ってきて一緒に調理、盛り付けし、職員と利用者が同じテーブルを囲んで雰囲気作りも大切に楽しく食事をしている。	栄養士資格保持者の職員が中心になり、糖尿病治療食や利用者の嗜好に配慮して、旬の地産地消食材を活用した食事を提供している。利用者・職員で談笑しながらの食事は美味しく殆んど完食。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。栄養士による栄養バランスに配慮した献立と、摂取の方法や食器の工夫等個別支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声かけ見守りをし、出来ない方に関しては、毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎の防止等に努めている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。	それぞれの利用者の排泄パターンを把握し、タイミングを見てさり気なくトイレ誘導できていた。昼夜ポータブルトイレ使用だった人が夜間のみ使用になる等トイレでの排泄支援の効果が出ている。	
44	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘の方には腹部マッサージも心がけている。毎食食後にはヨーグルトを提供しており、また、繊維質の多い食材にも気を配り、積極的に運動も行っている。		
45	(17) 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の有無を確認し、ゆっくりと寛いだ気分で入浴を楽しんでもらっている。	本人の希望を聞きながら、のんびり楽しんで入浴してもらえるようゆとりを持たせたタイムスケジュールで入浴支援している。一年以上風呂に入らず入浴拒否の激しかった人が改善した事例もある。	
46	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付かない時には温かい飲み物を飲みながらお喋りをする等配慮している。		
47	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明を個人ケースに保管し、全職員に分かるよう徹底している。		
48	役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作りや食事作り、洗濯物たたみ、色々な手作業等、得意な分野で一人ひとりの力を発揮してもらい楽しんでもらっている。		
49	(18) 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食やお弁当を持って戸外に出掛けたり、一緒に買物に行きます。また、家族に協力してもらって古い友人に会いに出掛けたり、お墓参りにも行きます。	花見や紅葉狩り等、全員総出の恒例行事以外に、個別支援で散歩や買物等にも出掛けしている。家族に協力を依頼したり、それが困難な人には職員が付き合っ、それぞれの行きたい希望を叶えている。	

己自	部外	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、少額のお金を持っている人もおられる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう促したり支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら暮らしの場を作っている。	壁には楽しそうな利用者の写真や共同作品を飾り、利用者が孫だと思っている人形を長ソファに座らせている。リビングからウッドデッキのベランダや庭に出て、外の空気を楽しむのも心地良い。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやダイニングテーブル、椅子の配置に配慮したり、絵画や花等の装飾で居心地の良い空間づくりを工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、写真や思い出の品々が持ち込まれ、使い馴れた馴染みの物を活かして、その人らしく暮らせる部屋となっている。	写真や花を飾ったり、テレビや家具を持ち込む人もいて、その人らしい居室になっていた。各部屋に洗面所を備え付け、それぞれのライフスタイルに合わせて畳とフローリングが選べるのも嬉しい。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮したりして環境整備に努めている。		

(別紙4(2))  
**目標達成計画**

事業所名 グループホーム 久米  
 作成日: 平成 21年 12月 10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営推進会議の推進委員が固定化している。	地域での幅広い分野からの出席を頂き、ホームのより良い運営につなげる。	運営推進委員の増員を検討する。地域の学校・交番等新たに委員を開拓し、情報意見を求める。	6ヶ月
2	27	介護記録に記号化を取り入れ、出来るだけ無駄な手間を省く。	記録の簡素化・一つの様式にまとめ個人の一日の状態・様子が分かるようにする。	職員全員で介護・観察記録の見直しを行い、記録の記号化等様式の検討を行う。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。